

# 令和5年度 外郭団体 評価シート

団体名	社会福祉法人静岡市しみず社会福祉事業団	所管課	障害福祉企画課
設立目的	<p>旧清水市が、障害者の福祉向上を目指すなか、特に在宅の心身障害児者の自立更生、社会参加の促進を図るため整備した「清水市心身障害児者総合福祉センター」の管理運営を行うことを目的として設立された。市が出資することで、市と一体となって、広く市民福祉の向上と増進に寄与すると判断して出資を行った。</p> <p>在宅の障がい者が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として活動している。</p>		
団体の役割	<ol style="list-style-type: none"> <li>障害福祉サービスの確実な提供 <ul style="list-style-type: none"> <li>スケールメリットを活かし、多様なニーズに応じた障害福祉サービスを確実に実施すること。</li> </ul> </li> <li>公的責任を自覚した事業運営 <ul style="list-style-type: none"> <li>一般の民間事業者では対応が困難な事業や役割を実施すること。</li> <li>地域における社会貢献活動を行うこと。</li> </ul> </li> <li>障害福祉サービス提供事業者のパイオニアとしての地域福祉の牽引 <ul style="list-style-type: none"> <li>地域における障がい福祉関係事業所等を把握、育成、活用し、地域としての支援力を向上すること。</li> </ul> </li> </ol>		

## 《経営計画書 取組状況》

### 1 団体の取組状況

#### (1) 団体における取組と結果

施策	評価指標	目標値	実績	備考
多分野に渡る障害福祉サービスの確実な実施	施設利用者の満足度	90%	85%	
	虐待、差別の防止	0件	0件	
	施設事故の防止	0件	0件	
1 団体意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者満足度は、ほぼ目標値を達成した。感染症の5類移行に伴い、必要な感染対策は継続しながら、施設内行事や外出活動を徐々に再開し利用者の活動の充実を図った。また、利用者の機能低下や保護者の高齢化等により拠点送迎場所への移動が困難になるケースが増加しているため、小型車を増車し、よりきめ細やかな送迎体制を整えた。今後、市貸与のバスについても順次、小型車への買い替えをお願いしたい。</li> <li>虐待にかかる通報案件はなかった。虐待防止委員会を中心にポスター等での啓発活動や意見箱の設置、セルフチェック、外部講師による全体研修を実施し職員としての倫理観の向上を図った。</li> <li>施設の瑕疵による事故は発生していない。転倒等の事故が4件あったが、看護職による応急処置、施設長から法人、市への報告を行い、事故後の検証、防止対策について職員間で共有を図った。また、事故防止については、毎月、施設ごとにヒヤリ・ハット事例を報告し、重大事故の発生リスクについて検証を行った。</li> </ul>			

関係課意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者満足度は、目標値を概ね達成しており利用者に対する適切な支援が行われていると評価できる。個別送迎への対応のため、市の車両について順次小型化を進めているところであるため、引き続き、団体と協議を行いながら進めていきたい。</li> <li>・虐待・差別及び施設事故についても該当案件は発生していない。引き続き、発生防止に向けた取り組みを進めていただきたい。</li> </ul>
-------	---

項目	評価指標	目標値	実績	備考
一般の民間事業者では対応が困難な事業や役割の実施	重度障がい者の受入状況	4人	6人	
	強度行動障害等の専門的研修の受講職員数	8人	56人	
	養成講座等への参加者数	1,800人	2,213人	
2 団体意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度障害者や強度行動障害等の専門研修の受講を積極的に行ったほか、外部講師による利用者支援についてのコンサルテーションの受講や他施設や支援学校への職員派遣研修などを実施し体制の充実を図った。</li> <li>・重度障害者受け入れについては、わだつみの計画相談で委託相談から困難ケースの受け入れを行ったほか、当法人の重度障害者を対象とした生活介護事業所で新規利用者が1名いた。今後は、重度障害者の専門的な支援を行う事業所として、見学会の実施などPR方法を検討していく必要がある。</li> <li>・養成講座については、感染症が5類に移行し、通常通りの開催になった。講師を依頼する関係団体とも連携し多くの方に参加していただいた。</li> </ul>			
関係課意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修、講座等の受講及び重度障害者の受入が積極的に行われており、外郭団体としての役割を適切に果たしているものと評価できる。</li> </ul>			

項目	評価指標	目標値	実績	備考
地域における社会貢献活動	地域における公益活動の実施回数 a；わいわい広場（子どもの居場所づくり）	24回	23回	
	地域における公益活動の実施回数 b；近隣公園の清掃	36回	52回	
	地域における公益活動の実施回数 c；宿泊型防災訓練	2回	2回	

3	団体意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わいわい広場については、感染症5類移行により、ほぼ予定通り開催し、定員を超える申し込みがあるなど、地域に定着していることが伺えた。今後は、困窮世帯の子どもの支援につなげるため、民生委員への周知や連携、ボランティアの募集などが必要と考える。</li> <li>・近隣公園の清掃については、目標を上回る回数を実施した。地域の方からも評価をいただいている。</li> <li>・宿泊型防災訓練は、感染症の流行等により地域の方への参加呼び掛けを中止したが、今後は、有事の際、相互の協力体制がとれるよう参加の呼びかけを検討する。また、季節ごとの課題を検証するため、時期をずらし年2回実施してきたが、時期による検証は一通りできたため今後は、年1回の実施としていく。</li> </ul>			
	関係課意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わいわい広場、宿泊型防災訓練は概ね目標どおり実施されており、近隣公園の清掃は目標を大きく上回った回数を実施されている。</li> <li>・宿泊型防災訓練は、R4、R5に年2回ずつ開催し、季節ごとの課題が整理された。今後は整理された課題を訓練内容に取り入れる等、引き続き防災力の向上に努めていただきたい。</li> </ul>			
4	項目	評価指標	目標値	実績	備考
	地域における支援力の向上	講師派遣等による地域の障がい福祉事業者の支援回数	16件	30件	
		施設提供による地域の障がい福祉事業者の支援回数	実施	実施 (384回)	
		見学者や実習生の受入れ人数	410人	247人	
団体意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師派遣等については、地域の障がい福祉事業者に対し障害特性に関する研修会の講師の派遣、障がい者スポーツやレクリエーションの出前講座の開催などを行った。関係機関からの依頼も年々増えており、地域の中で認識が高まっている。</li> <li>・施設提供については、会議室、グラウンド、多目的ホールを貸出し、福祉団体等の活動に協力した。</li> <li>・見学者や実習生の受け入れについては、感染症の5類移行により通常通り受け入れを行い、障害福祉の理解促進、福祉人材の育成等に協力した。今後は、大学等の資格取得のための実習の受け入れができるよう有資格者の実習指導者研修修了者の増を検討する。</li> </ul>				
関係課意見	<p>実習生等の受入については目標値を下回ったものの、実習指導者研修修了者の増について検討されており、地域における支援力の向上に寄与する取り組みが適切に行われていると評価できる。</p>				

(2) 取組全体の総括

外郭団体	
<p>感染症の5類移行により、通常どおりの事業を実施することができ、ほぼどの項目も目標値を達成できた。重度障害者の受け入れについては、近年、民間の生活介護事業所の増加や就労系の事業所を希望する傾向、清水区内に対象者がいないなどにより新規契約者が増えないが、専門性やサービスの充実を図りながら、環境の良い立地や地域とのつながりなどの強みも併せて周知できるよう発信方法を検討していきたい。</p>	
静岡市	
<p>新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、概ね目標どおりに事業が実施されており、外郭団体として適切に役割が果たされていると評価できる。特に、専門的研修の受講等、職員の人材育成に力が入れられており、重度障害者を受け入れる体制が整えられている。引き続き、効果的な情報発信により新規受入人数の増加を図っていただきたい。</p>	

2 団体の財務・人員の状況

(1) 収支状況

区分		R4年度決算	R5年度決算	増減理由等補足事項
収入	事業収入	418,534	401,521	R4コロナ負担金2,400万円受領
	事業外収入	0	0	
	その他	1,389	1,218	
	合計	419,923	402,739	
支出	事業支出	393,821	398,284	R5社会福祉充実計画による事業費用440万円
	事業外支出	1,355	7,914	R5社会福祉充実計画により送迎車両2台購入
	その他	2,580	552	R4積立金200万円
	合計	397,756	406,750	
収支差		22,167	-4,011	

(2) 正味財産（純資産）の状況

区分		R4年度決算	R5年度決算	増減理由等補足事項
収入	経常収益	417,856	393,390	R4コロナ負担金2,400万円受領
	経常外収益	677	8,132	R5相談支援事業委託料消費税分570万受領（H30～R4分）、漏水に伴う還付金80万円受領、全事協東海北陸ブロック会議当番参加費等63万円受領
	その他	212	4,850	R5送迎車両1台寄付受領
	合計	418,745	406,372	
支出	経常費用	399,642	404,896	R5社会福祉充実計画による費用440万円
	経常外費用	58	8	
	その他	14	14	
	合計	399,714	404,918	
収支差		19,031	1,454	

(3) 資産の状況

区分		R4年度決算	R5年度決算	備考（増減理由・内訳等）
資産	固定資産	138,970	149,727	R5送迎車両3台増加等
	流動資産	372,019	370,592	
	合計	510,989	520,319	
負債	固定負債	35,330	40,741	R5リース債務増加（相談支援システム）等
	流動負債	26,942	29,588	
	合計	62,272	70,329	
正味財産	基本財産／資本金	3,000	3,000	
	剰余金等	445,717	446,990	
	合計	448,717	449,990	

(4) 職員数の推移

年度	種別	職員種別			合計	増減理由等
		市OB	プロパー	その他		
R4	常勤	2	59		61	
	非常勤		9		9	
	臨時				0	
	合計	2	68	0	70	
R5	常勤	3	59		62	委託業務パート及び育休職員分採用による増
	非常勤		12		12	
	臨時				0	
	合計	3	71	0	74	
R6	常勤	3	52		55	R5年度末退職による減
	非常勤		10		10	
	臨時				0	
	合計	3	62	0	65	

(5) 財政・人員体制の現状分析・課題

- ・当年度の収支については、利用者減による障害福祉サービス等利用料収入の減や車輛の買い替え等による支出増により赤字となり、前期末支払資金残高を取り崩し対応を行った。
- ・人材育成については、階層別内部研修の実施や外部専門研修の受講の推進、施設研究発表会を実施し職員の資質向上を図った。
- ・人員の配置については、法令の基準に合わせ必要人数を配置している。職員採用に関して、通常の求人募集では確保が困難なため有料求人紹介等を利用する機会が増えており、人材確保に関する経費が増加している。職員採用や募集方法に関する見直しが課題となっている。

## (6) 分析結果や課題を踏まえた団体における財政・人員体制の見通しと今後の取組

- ・利用者や保護者の高齢化により退所者が増加している一方で就労系の事業所の希望者が多く、生活介護事業所の運営が主体となる当法人の事業所の新規希望者は少ないため、契約者が減少し安定した収入の確保が困難になっている。今後は、重度障害者の支援に関する専門性のアピールや小型車による送迎の拡大、空き定員を活用した日中一時支援サービスの実施、入浴サービスの実施検討など利用者ニーズに合わせたサービスの充実を図り新規利用者の獲得を目指す必要があると考える。
- ・職員の確保については、離職防止対策として職場環境の改善や優秀な人材の正規職員への登用、定年退職者の再雇用を積極的に進めるほか、時代に合った採用媒体の活用や応募につながるよう情報発信の媒体としてのHPの構成の工夫や具体的な業務内容の発信をしていく。

## 3 全体総括・評価

### 外郭団体

- ・感染症の5類移行後、法人全体として各項目に積極的に取り組みほぼ目標値を達成した。
- ・既存の利用者の退所が加速する一方、新規利用者が増えない状況があり、財政面で安定した収入の確保が困難になってきている。新規利用者獲得のための情報発信やサービスの充実、事業の見直し等が必要と考える。
- ・人材の確保について、福祉業界全体の人材不足や障がい者支援の不透明さによる希望者の低迷など年々採用が難しくなっている。今後も質の高いサービスを提供するため、法人職員の人材育成の充実を図りながら若年層の職員採用につながるような取り組みを行っていく必要がある。

### 静岡市

- ・外郭団体としての役割を意識した適切な事業が行われていると評価できる。
- ・一方で、一部施設では退所者が加速する中、新規利用者が増加しない状況があり、収入の確保が減少している状況である。施設のPR等、新規利用者を確保するための取り組みを進めていただくとともに、市と意見交換をしながら、今後のサービスのあり方の検討を進めていただきたい。

## 4 市への要望・意見（外郭団体記載）

法人設立から40年以上が経過し、障害者福祉の現状やニーズも変わってきている。市の補完的な役割を担う外郭団体として、市の障害者福祉計画に基づき、改めてどのような役割を担うかについては所管課と従前より協議を行っているが、今後も継続した協議が必要と考える。

## 5 外郭団体への要望・意見（所管課記載）

「静岡市外郭団体の活用及び連結に係る指針」を踏まえた役割、連携等により適切に事業が実施されているところだが、法人設立から40年以上が経過し、障害者福祉の現状やニーズも変わってきている。それらに対応するために、今後団体で実施するサービス内容等の検討のため、継続して協議を行っていただきたい。